
【タイトル未定】

美空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【タイトル未定】

【コード】

N6898N

【作者名】

美空

【あらすじ】

高校受験を控えた夏

15歳のサツキは事故に会う

目覚めた場所に1人の男性

19歳のリヨウ

2人彷徨う街は
今までいた場所のはずなのに

そこには
誰もいなかった

【始まりの音】

【始まりの音】

体温よりも暑い空気の中

サツキは汗を滲ませながら人混みの中を進んでいた

高校受験を控えた15歳の夏

楽しいはずの夏休みも

今年ばかりはそうもいかない

夏期講習に向かう炎天下の道程

耳に差し込んだイヤホン
お気に入りの曲を聞こうと、手元の小さな画面に集中していた

器用に指を動かしながら
お目当ての曲を見つけて再生ボタンを押す

この暑さでも
少しは気分の良くなるイントロが流れてくる

変わらずその小さな画面を見たま
ま歩く速さは変わらずにいた

最後に聞こえた音は

お気に入り曲と

大きなクラクションの混ざった音だった

【誰もいない世界】

【誰もいない世界】

真っ先に視界に入ったのは
目の前の赤信号

自分が横断歩道の上にいることに気付くと
サツキは慌てて横断歩道を渡る

そこでようやく気付く

そこに
誰もいないことに

「何…これ」

今まで、この暑い中人混みを歩いていたはずだ

誰もいない

人々の話し声も、車の走る音も聞こえない

横断歩道の信号機が点滅する

それに合わせて、音が鳴る

いつもよりハッキリ聞こえたその音に

サツキは恐ろしくなった

何が起こったのか
ここは何処なのか

ここはさっきまで自分がいた場所のはずだ

夢？

夢を見ているの？

それならば

こんなに恐怖を感じることも、焦る必要も無いのだが

しっかりしたアスファルトに立つ感触と
はっきり覚えている夏期講習に行くという記憶が

夢だと思うことにも

少しの不安を感じさせた

道路には車が渋滞の列を作っている

しかし

その車内には人の姿は見られない

段々怖くなってきたサツキは
怯えた様子で辺りに誰かいないか探しだした

サツキ「誰か……いませんか？」

決して大きな声ではなく
細々とつぶやくようにそう言う

この誰もいない世界に恐怖を感じているのか
自分の立っていた場所の近辺しか探そうとしないサツキ

ふと、渡ってきた横断歩道のほうに目をやると
最前列で止まっている軽自動車の中に
ハンドルにもたれかかっている人の姿を見つけた

【夢か現実か】

【夢か現実か】

これは夢なんだと頭の中で思っ
ていても
感じたことのない恐怖から
サツキは走ってその車に駆け寄った

窓越しにその男性を覗き見る

明るい色の髪
細身で筋肉質な腕が
ハンドルにもたれかかっている

「あの、すみません」

窓をコンコンとノックする

その男性は気付く様子も無く
そのまま動かないでいる

サツキは色々な感情の混ざった緊張で、そっとドアに手をかける

恐る恐る

男性の肩に手を置いて

少しだけ、揺さぶってみた

「大丈夫ですか…？あの…」

『ん…』

「あっ! !」

小さな声が聞こえて

男性の体が動いたことに

サツキはホッとした

少なからず

この男性が死んでいるかもしれないという考えもあつたからだ

何より

この誰もいない状況で自分以外の人間を見つげられたことに安心した

「あの…!!ここ、何か変なんです!!誰もいないんです!!」

『…?』

「さっきまで人がたくさんいたのに…車にも誰も乗ってなくて、それ…!!」

男性は頭を痛そうに支えながらサツキのほうを見た

この頭の痛みは何だろう

この子は誰だろう

誰もいない？何を言って…

その言葉がどういう意味か

彼はすぐに自分の目と耳で知った

『…何だ、これ……』

人が、いない

聞こえるのは
機械が流す音だけ

自分の横には
泣いている少女がいる

彼もまた思う

これは夢なのか、と

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6898n/>

【タイトル未定】

2010年10月9日12時47分発行